

孝子伝の図

— 宋、遼・金を中心とする —

黒田 彰

一、鸞峰の墓の孝子図

二、宋の孝子図について

三、遼・金の孝子図について

四、二十四孝図の系統

孝子伝、二十四孝を文学的に研究しようとする時、中国本土においてその殆どの文献資料が散逸、専ら我が国伝存の資料に頼って、研究を進めなければならぬ現状にあって、その欠を埋める資料が、孝子伝図、二十四孝図などの図像資料である。かつて後漢、六朝期の図像資料については、「孝子伝の図―後漢、北魏を中心とする―」（『説話文学研究』34、平成11年5月）、また、遺品の極めて稀な隋唐期のそれについては、「唐代の孝子伝図―陝西歴史博物館蔵三彩四孝塔式缶について―」（本誌6号、平成12年10月）において述べたことがある。小論はその続稿として、宋、遼・金期の孝子伝図を扱う。所謂孝子伝図が終焉を迎え、二十四孝図が取って替わる実態を、遺品五十一件について具体的に報告し、文学史とパラレルに展開する、孝子伝図の美術史を明らかにする。併せて、二十四孝の発生、分岐の問題にも触れてみたい。

後漢、北魏において盛んに描かれた孝子伝の図は、後述、二十四孝の成立に伴って聊かその姿を変えつつ、宋、遼・金の時代に受け継がれたものと見られる。日中文学史上の孝子伝から二十四孝への展開が、考古ないし、美術史上における、孝子図の変遷に対応していることになる。孝子伝の研究にとって、後漢、北魏期の孝子伝図に類出する榜題、また、図柄などが、看過し得ない価値をもつことは、拙稿「孝子伝の図―後漢、北魏を中心とする―」で概観を試みた通りであり、続く宋、遼・金を中心とする孝子図も、孝子伝の展開、取り分け享受の問題を考える上で、同様の価値をもつものと思われる。小稿は、その続稿として、宋、遼・金代における、孝子図の概観を試みようとする。

近代に入って、例えば遼の孝子図に関する報告の早いものとして、中国における羅振玉氏による二十四幅の孝子画像輒(『古明器図録』巻四所収、民国五(一九一六)年刊。後述)と共に、日本においては、遼代研究の開拓者鳥居龍藏によるそれを逸することは出来まい。さて、宋、遼・金の孝子図の研究には、後漢、北魏の場合と同じく、或いは、時として、それ以上の困難を伴うことがある。まず鳥居氏

の報告を例として、その困難さの一、二に触れてみる。ここで取り上げるのは、鳥居氏が「鸞峰の墓」と呼ばれたもので、一九三〇、三五、四〇年の三次に及ぶ調査を経て、一九四二年(昭和十七年)に刊行された『遼代の画像石墓』(Sculptured Stone Tombs of the Liao Dynasty, ハーヴァード燕京研究所刊)における報告である。英語で書かれ、米国の大学から出版された、数奇な本書の成り立ちについて、次に、中蘭英助氏による『鳥居龍藏伝 アジアを走破した人類学者』17、18章を摘記しておく。

鳥居は……昭和十四(一九三九)年五月、北京にある燕京大学から客員教授としての招聘を受け、渡航することを決意したのである。燕京大学はハーヴァード大学とも姉妹校のアメリカ系ミッション・スクールで、当時の北京西郊の海甸(現在市内・海淀区)の頤和園近くに広大なキャンパス(現在・北京大学)をかまえる総合大学であった。すでに二年前に勃発した盧溝橋事件により……日中戦争は内陸部へ向って本格的に果てもなく拡大しつつあった。一方、和平地区と称された日本軍占領地区の北京では……アメリカ系私大の燕京大学は、日本軍占領下にも閉鎖されることなく、治外法権をもつ外国学校として存続したのである……鳥居は……人類学者としての理想を求め、着実に遼代研

究を完成させるための自由を確保するため、燕京大学客員教授のポストを快諾したといつてよい（17章）。論文『遼代の画像石墓』が英文で発表されたのは、昭和十七（一九四二）年のことだが、鳥居の「緒言」の日付「一九四一年十二月二日」が示すように、太平洋戦争勃発の直前に書かれたものと分る。しかも論文の「前書」は、スチュアート校長によって執筆され……真珠湾攻撃による太平洋戦争開戦の十二月八日より六日前の十二月二日、鳥居の執筆した「緒言」によって、当時の契丹研究の環境をうかがうことができる。第一にスチュアート校長からの論文完成への提案を始めとして、原稿作成上の助手となった次女緑子と外交史の若い学者張雁深、英文原稿に目を通してくれたハーヴァード燕京大学学社の「ヒルダール・ハーグ女史」、印刷から刊行までの進行を手配された「エリナー・フォン・エルトバーク・コンステン博士」、印刷技術に関して助言を寄せられた「ビンツェンツ・フントハウゼン教授」らの名を次々と書きとめて感謝の意を表している……だが、日中戦争から太平洋戦争へと拡大され、第二次世界大戦の渦中に呑みこまれてゆく北京にあって、鳥居の研究生活がいつまでも平安であり得なかったことはいうまでもない……軍は当時の北支派遣軍司

令部、官は興亜院華北連絡部（一九四二年十一月以降は大使館）で、非常時局下に敵性アメリカのミッシェン・スクールに勤めるということで、しだいに在留邦人社会からも孤立させられる（18章）

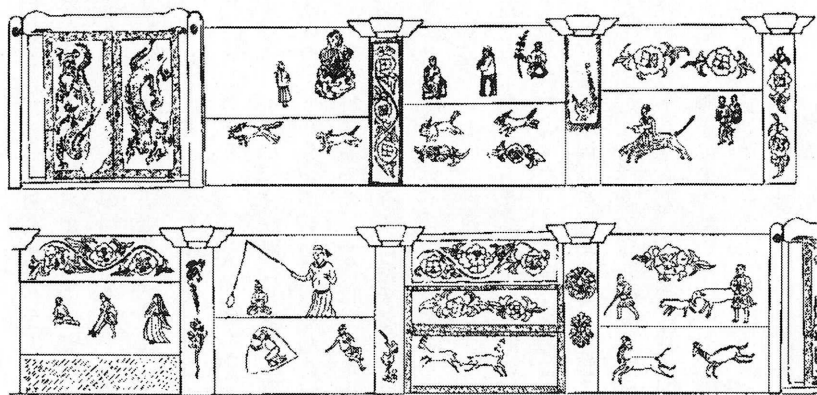
時代と学問のあり方というものを、深く考えさせずにおかない側面をもつ、本書誕生の経緯だが、以下の引用は、全集所収の邦訳（小林知生氏訳）に拠る。

「遼代契丹族の著名な画像石墓」の一、鸞峰の墓は、「鞍山の町からおよそ四〇キロ、白家堡子の狭い丘陵上にある」。「墓は板状の雲母片岩で建造され、石室と羨道からなりたっており」、「石室は八角形であるが、壁面は八面ではなく七面である。一面が石室と羨道を連絡する入り口となっているからである。七面の壁と、その壁と壁との間に立てられている石柱に、人物画、花、鳥、動物その他が彫りこまれている」。「画像はきわめて薄手のレリーフか、あるいは石に線を彫りこんである平坦な刻画である。現在のわれわれは壁面に彫りこまれている画像のみを眺めうるにすぎないが、石室内の石材の一部になお美しい赤色や青緑色の色彩の形跡が残存しているから、かつてはすべての画像に色彩がほどこされていて、はるかに魅惑的なものであったことが想像される」。「主室は石の壁で囲まれた八角形を呈している。入り口となっている一面を除く七面の壁は、す

べて画像がほどこされている。これら七面の各壁の間に八本の石柱が立てられているが、各石柱もやはり装飾されている。壁面と石柱の画像には関連性がみとめられない。

「西から東へ順に画像のある」「壁面をA、B、C、D、E、F、Gとする」。全集5、六一一頁から鸞峰の墓の「画像石柱と壁」の模写図を引用しておく。図版上段、左から二面目の壁面がA、右へB、Cとなり、下段の左からD、E、F、Gとなる（図版参照）。

では、石室壁面の画像A—Gに対する、鳥居氏の分析を聴くことにしよう。「A壁……下部には疾走する獅子が、また上部には雲にのった威厳のある武装した人物がみられる。その下方に立つ一人の男は、雲上の人物を見つめている。私はこの場面は『大唐西域記』に関連する物語にでてくる三蔵、すなわち唐の玄奘と猿の悟空の最初の出会いを表しているものと考ええる。玄奘は經典を求めてインドにわたった三蔵に精通する高僧である。雲上の人物が悟空であり、その下方の人物が玄奘法師である。猿の悟空が乗っている雲は、彼のいわゆる筋斗雲にちがいない。両人の最初の出会いの物語について、南宋の『大唐三蔵取経詩話』上巻第二節「行程遇猴行者処」には次のように述べてある……現在入手できる文献のこの記述によると、玄奘と悟空との出会いの物語は、南宋時代にはすでにでき上がっていたこ



鸞峰の墓（鳥居龍藏全集5より引用）

とが立証される。またもしA壁が右に述べたような場面を表しているものとすれば、南宋に先だつ遼代にすでにこの場面が伝説の一部になっていたことを証明しているといえよう。」「次にB壁であるが……壁面上部に三人の人物が、また下部に二輪の大きな牡丹の花と二頭の疾走する獅子が描かれている。私の見解では、上部の場面は、やはり三蔵玄奘に関連があると考えられる。靈巖寺の松樹と法師との関係を表しているように考えられるが、この点について『太平広記』は次のように述べている。「玄奘が西方諸国へ出かけるとき、まずはじめ靈巖寺に宿泊した。彼は庭に立つて一本の松の樹を見た。これに手をふれながら、『私は仏教を究めに今から西に向かう。お前は（これから）西に向かつて伸びなさい。しかし私が帰ることになれば、門弟たちに私の帰りを知らせるために東に向かつて伸びなさい』といった。松の枝は毎年西に伸びて数十尺となった。ある年、突然、枝は東に向きはじめた。弟子たちは『わが修道の師が帰途につかれた』と口にした。彼らは師を迎えに西に出かけた。玄奘は実際に帰ってきたのである。このとき以来、この松樹は摩頂松、すなわち『天にとどく松』と呼ばれるようになった。この記述はB壁上に彫刻されている場面に符合する。法衣を右肩にかけて左側に坐っている人物が玄奘法師、中央の人物は法師を迎える弟子、また松

の枝を手にする人物は法師の従者であろう。」「C壁は……その上部には二輪の大きな牡丹の花、また下部には獅子にのる經典を手にした法師、および背中の籠に人をのせてはこぶ男が描かれている。この場面もA壁やB壁の場合と同様に、三蔵玄奘に関する物語である。これらは三つの関連する一連の物語である。このC壁の場面は獅子と三蔵法師を表していると私は考える。「七人の旅人がおよそ十里を進んだ朝はやく、従者の猿は法師にまもなく獅子林に到着する旨を告げた。しかし彼がいい終わるか終わらないうちに、はやくも獅子林に着いた。一行は、疾走する麒麟と、尾をふり頭をゆする威嚴にみちた獅子だけを目にした。彼らは出迎えのため獅子林から出てきたのである。みんな口に香りのよい花をくわえて法師に敬意を表した。法師は合掌して前進した。獅子は五十里以上も法師に従った。どこもかしこも獅子林であった。ようやく彼らは自然のままの場所に着いた。法師は周囲を見まわして、獅子王ならびにその仲間たちの出迎えに感謝の意を伝えた」（前掲の『大唐三蔵取經詩話』上巻第五節、「過獅子林及樹人国」。片手に經典をもって獅子にのっている態度や、帽子、衣服の様子からみて、三蔵法師であることが認められる。右側の人物はおそらく二十四孝に属する。母を背負った後漢の江革であるかもわからない。」「D壁は……その上部には波状

の線によって三区に分けられた各区にそれぞれ牡丹の花が、また下部には三人の人物が描かれている。下部の中央の人物は男、その両側は女である。この場面は古くから伝えられている孝子物語の一つを描いたものである。これはわが子を埋葬する郭巨の次のような物語である……この物語がD壁面に表されているのである。中央の男が郭巨、両腕で子供を抱えている女が妻、郭巨の背後の長髪の女が母親である。郭巨は鍬で地面を掘っている。「次にE壁は……上り下りずれども二人物を表している板石で、花の図文はみられない。上部の絵は私には太公望、すなわち周初期の呂尚に関する物語の一場面を描いてあるように考えられる。すなわち渭水で魚を釣る場面である。立って大魚を釣りあげているのが太公望、その側に坐っているのが文王、すなわち西伯に相違ない。この有能な人材の呂尚は、渭水で釣りをしていたとき文王に会い、その偉大な友となった。興味をひかれるのは、兩人とも漢人であるが、ともに衣服が契丹風であることである。壁面の下部には二人の人物が描かれている。一人は半裸で地面に坐り、片足をもち上げ、左手に魚をもっている。他の一人はその頭髮からみると女である。両腕をのばした前かがみの姿勢で、三角に仕切られたところを走りまわっている。これは姜詩と川の鯉の物語と推測される……思うにこの場面は上記の物語を表すもの

と考えられる。魚を手にする男が姜詩その人であり、また女のいる三角形に仕切られたところは川岸であろう。「F壁は……A、B、C、D、E各壁のような人物像はまったくみられない。上部と中部には牡丹の花が、また下部には疾走する二頭の山羊が描かれている」。「G壁は……上部には中央に牡丹の花、その下方に農具を用いて土地を耕している若者が描かれている。その近くに別の人物が立っているが、その外見からみると女と考えられる。この兩人の間には若い耕作者の方に向かって歩いている二頭の動物がいる。前方を進んでいるのは馬または驢馬であり、その後につづくのは象である。また下段には二頭の山羊が疾走している。私はこの場面を神話にみる歴山の舜帝物語を示すものと考えてるのである。神話によると、舜はきわめて孝心に富んでいるので、象はその美德にうたれ、彼の畑地耕作を手伝いにやってきたといわれている。この絵にみる若き耕作者は舜であり、そこへ象が助けにやってきたところであり、また舜のそばに立っているのは彼の母である」。鸞峰の墓、石室壁面の画像七面に対する、鳥居氏の解釈は、右の通りである。画像A—Gに描かれた人物に関する、氏の結論を要約すれば（人物像の無いFを暫く除く）、まず上段A、B、C下部左の三面は玄奘関閥係、C下部右は江革図、Dは郭巨図、E上部は太公望図、E下部は姜詩図、G

は舜図となろうか。以下、上引の鳥居説について、聊か検討を加えてみたい。

さて、画像A、B、C下部左の三面から始めよう。鳥居氏は、これらを玄奘関係とし、さらにAについて、「悟空の表情と衣服を検討すると、それらは形式的にはすでに舞台的であることに気がつくであろう」「泉州の東塔にみる孫悟空の着衣は軍衣であるが、私はこれを舞台用と考えるのである。これは鸞峰の墓壁上の孫悟空の着衣に似ている」とも述べ、また、当画像と西遊記との関係については、本書以前から、例えば昭和七年の「猿王孫悟空（遼代の壁画）」（『武蔵野』18・2）、昭和十年の「『西遊記』図様を彫刻せる画像石」（『宝雲』11）などで、屢々論及が繰り返されていた所でもある。しかし、当画像を西遊記と関連付ける、鳥居氏の認定については、以後、中野美代子氏による、次のような反論が出された。中野氏は『西遊記』図様を彫刻せる画像石」を引いて、

飛行するサルといえ、かつてわが鳥居龍藏が遼代の墓から出土した画像石に、「頭髮・顔面は猴形であつて、その衣裳は武装して所謂舳舳雲に乗って居る」孫悟空と「彼を望んで合掌して居る」玄奘との「初対面の所を圖したと思はるゝ」図が刻されていると發表したことがある。遼代といえ、北宋の宣和七（一二二五）

年で滅亡、しかもその遼墓の位置が旧満州（現東北地方）の鞍山の近くというのだから、もし事実とすればおどろくべきことだが、どうやらこれは鳥居龍藏の勇み足だったようだ。發表された図版は写真でなく拓本なのでなお判然としないが、雲上の人の頭髮はことごとく逆立っており、顔面も一向に「猴形」ではない（口がつき出していない）。これはむしろ髪を逆立てた深沙神のあの形相を彷彿とさせる。とすれば、史実の玄奘が流沙河で飢渴に苦しんだあげくに深沙神を感得した例の場面にちがいない（『孫悟空の誕生 サルの民話 学と「西遊記」』IV 1）

と言われる。中野氏の指摘は、Aの画像について、その左方の人物を玄奘と認めつつ、雲に乗るのは孫悟空でなく、「深沙神」に「違いない」と訂正されたもので、B、Cに關する言及はない。ところで、Aに描かれたのは、本當に玄奘と深沙神なのであるか。鳥居氏の主張する、当画像と西遊記との関連を否定する点は、中野氏に賛同したいが、私は、Aの画像を劉殷図であらうと考える。図の基となった劉殷譚の内容は、例えば孝行錄前贊章8「劉殷天芹」に、劉殷彭城人也。奉_レ母至孝。母於冬月、患_レ病思_レ芹。殷連_二沢中_一、号泣無_レ已。恍若天神賜_レ芹。持_レ歸供_レ母、其病即差（南齊文庫本）

と言う。そして、宋・遼・金の孝子図に見る劉殷図においては、孝行録に記す「天神」を、雲に乗った武神として描くことが多いのである。すると、Aの画像は、下方の人物が劉殷、雲に乗るのが「天神」（孝行録）ということになる。次に、Bの画像を見よう。鳥居氏はB上部を一場面と捉え、太平広記九十二「玄奘」の記述を根拠に、その場面を「靈巖寺の松樹と法師との関係を表している」ものと推定して、描かれている三人の人物を、「左側」「が玄奘法師」、「中央……は」「弟子」、「松の枝を手にする人物は法師の従者」とされた。私は、Bの場面を二つに分けて考えたい。

左側と中央は、木母と丁蘭であり、右は竹を執る孟宗である。つまり画像Bは、孝子伝、二十四孝に名高い、丁蘭図（左）と孟宗図（右）ということになる。参考までに全相二十四孝詩選3、4の丁蘭譚、孟宗譚を掲げておく。

・丁蘭父母死、思慕骨肉。乃刻木為象、而事之以報其本。其妻不敬、以針刺之血出。蘭婦見之棄妻、大泣不止。令入父母俱存者、可不敬乎。

・孟宗字恭武。母年老病篤、冬月思笋食。宗往竹林中、泣竹而告天。有頃地上、出笋数茎。持歸作羹供母、食畢而病愈（竜谷大学本）。

鳥居氏が玄奘図関係とされる、最後のCの画像に移ろう。氏は、C下部左を「片手に経典をもって獅子にのっている」

「三藏法師」、「三藏玄奘」と解し、下部右を「二十四孝に属する」「江革」と解された。さて、氏の引かれた大唐三藏取経詩話上第五には、玄奘の獅子に乗る話が見えないし、右に突如、二十四孝の江革が登場するのも、聊か奇妙と言うべきである。思うに、氏が獅子に乗る玄奘とされたC下部左は、虎に跨がる楊香の図ではないか。例えば全相二十四孝詩選12には、次のような楊香譚が載る。

楊香其父、為虎曳去。香搏虎、遂免於害。

右は鳥居氏の解釈通り、江革で良いだろう（鮑山である可能性も高いが、今は立ち入らない）。すると、鳥居説の問題は、玄奘図ABCが、C下部右から唐突に二十四孝図となるという見方にあり、そもそも鸞峰の墓の画像は、Aから孝子図ではなかったか、ということになる。A、B、Cに玄奘図が描かれなければならないような、積極的な理由も見当たらず、鸞峰の墓についても、その画像ABCは、孝子図と解釈するのが、宋・遼・金墓の画像内容として穏やかであろう。さて、Dを郭巨図とする、鳥居氏の分析も、基本的に正しい。即ち、「中央の男が郭巨」、左の「両腕で子供を抱いている女が妻」であることは、ほぼ間違いない。但し、右側の「郭巨の背後の長髪の女が母親」とされることには、疑義がある。右の女性は、おそらく曹娥の図である。頭を覆い右袖を口に当てる、その特徴的な形姿が、宋、

遼・金墓における、曹娥図の一般だからである。その曹娥譚の内容を、孝行録前贊章14「孝娥抱屍」によって示しておく。

孝女曹娥者、会稽上虞人也。父盱為巫祝。漢建安二年五月五日、於臯江沂濤。迎婆娑神、值江水大發。而遂溺死、不得其屍。娥年二十四、迺沿江号哭。昼夜不絶声、旬有七日。遂投江而死、抱父屍而出。後吏民改葬樹碑焉。

Eの画像については、説明が若干複雑になる。まず上部を、鳥居氏は太公望図とされたが、右側の人物が魚を釣っている所からすると、これは王延図であろうか（王延譚は、祖庭事苑五、三教指歸敦光注二などに、「孝子伝曰」として引かれる他、崔鴻の十六国春秋前趙録以下に見える）。また、下部右の、「半裸で地面に坐り、片足をもち上げ、左手に魚をもっている」人物を、姜詩であろうとする氏の説明に關しても、一考の余地がありそうだ。よく似た話ながら、宋、遼・金墓にあって、水の上に裸で臥せている場面として描かれるのは、王祥を通例とするからである。従って、下部右は、王祥図と見るべきであろう。そして、その左は、「頭髮からみると女」が「両腕をのばした前かがみの姿勢で、三角に仕切られたところを走りまわっている」、或いは、「女のいる三角形に仕切られたところは川岸」な

のではなくて、生前雷を畏れた母親を守るため、雷鳴の下、母の塚を抱く子供を描いたもの、即ち、二十四孝の王裒図と考えられる。故に、王裒の上部に位置するのは雷神であろう。面白いことに、殆ど同様の王裒図が、鳥居氏同書の報告に掛る、鞍山の石室墓B壁、鞍山山麓その他石室墓出土の画像石B石、L石などに、見出されるのである。画像Eに關わる王延、王祥、王裒譚の内容を一括して、それぞれ三教指歸敦光注二所引の孝子伝、全相二十四孝詩選7、15に拠り、掲げておく。

・王延母勅延求魚、不得伏^た之泣血。延叩頭於水而哭、有一魚躍長五尺（三教指歸敦光注所引孝子伝）
・王祥魏時人、早喪母。繼母朱氏、不慈數譴之。由是失愛於父母。常欲食生魚、時天寒水凍。祥剖氷求之、氷忽自解。双鯉躍出、持歸供母。每氷凍天寒、有人形臥氷上。今在肇慶府（全相二十四孝詩選）

・王裒字偉元、至孝奉母。平生畏雷、既死而葬。每遇雷震、即至墓曰、裒在此忽懼（同）

鸞峰の墓、最後のG壁の画像は、鳥居氏の言われる如く、舜の図であろう。以上を纏めると、鸞峰の墓A壁の画像は劉殷、Bは丁蘭と孟宗、Cは楊香と江革、Dは郭巨と曹娥、Eは王延及び、王裒と王祥、Gは舜の図となろう。このよ

うに石室壁面の人物画像は、A以下全て孝子図、或いは、二十四孝図と見ることが出来る。

さて、以上は、鸞峰の墓の画像に関する、鳥居説の批判を意図して、私見を記したのではない。冒頭で述べた、

宋、遼・金の孝子図研究の困難さの一つは、例えば鳥居氏の報告された鸞峰の墓の如く、榜題のない各画像の内容を、どのように判定するかということにある。榜題を備えた画像については、その榜題を手掛りとして、ほぼ正確にその内容を判断することが出来る。けれども、榜題を欠いた画像の場合、その内容判定は、ともすれば相対的なものとなることが多い。右に鳥居説の修正を試みた私説にしても、鳥居氏以降のより豊富な事例を参照し得たことを除けば、やはり相対的なものであることに変わりはない。そして、ここで扱う宋、遼・金の孝子画像においても、榜題を欠くものが非常に多いのである。それらを未詳とするのは簡単なことだが、その研究内容は、希薄なものとならざるを得ないだろう。そこで、以下の叙述にあつては、榜題のない画像についても、出来るだけその内容を判定すべく務めたことを、予め断っておきたいと思う。しかしながら、それらがあくまで相対的な私見に過ぎず、今後のさらなる批正を必要とする暫定案に留まることは、言うまでもない。鳥居氏の報告は、例えば宋、遼・金の孝子画像における、内

容判断の困難さを、よく物語るものであり、以下に示す私見についても、なお大方の教示を乞いたい。

二

後漢、北魏の孝子伝図が戦前から注目されていたのに比し、宋、遼・金のそれは、鳥居龍藏氏の業績などを例外として、主に戦後、脚光を浴びるに至った分野と言える。殊に近年に掛けての中国における、宋、遼・金墓の発掘成果にはめざましいものがある。文学研究にとって、宋、遼・金の孝子伝図の研究が重要なテーマであることを、逸早く指摘された業績に、金文京氏による『孝行録』の「明達売子」について―「二十四孝」の問題点―（平成元年）がある。氏は、二十四孝研究の立場から、山西聞喜寺底金墓を取り上げ、後さらに、『孝行録』と「二十四孝」再論（平成6年）において、十一例に及ぶ宋、遼・金墓の画像を分析されている。また、我が国において、宋、遼・金墓の孝子図を体系的に考察された、高橋文治氏の「金元墓の孝子図と元曲」（平成元年）は、特記すべき労作と言える。氏は、元曲研究の立場から、十二例の画像を上げられた。また、中国における宋、遼・金墓の孝子図研究として注目すべきものに、例えば段鵬琦氏の「我国古墓葬中發現的孝悌図象」（一九九三年）、趙超氏の「山西壺関南村宋代

軛雕墓軛雕題材試析^①」(一九九八年)の二論文がある。内、段鵬琦論文は、漢代から元初期に至る、孝子図の総論として画期的なもので、特にその第三節は、「宋遼金元(早期墓)」の「孝悌故事図象」を扱い、

概不完全統計、宋遼金墓葬発現孝悌図象者近三十例。

其中

また、

刻絵孝悌故事的元代墓葬、多属元代早期。現已発現五例

として、孝子図を含む宋、遼・金墓二十八例(内、宋八、遼・金二十)、元初期墓五例、計三十三例を上げ、それぞれの参考文献を示されたものである。当論文は、宋、遼・金の孝子図を対象とする、おそらく始めての本格的な概説として、大変優れたものとなっている。次に、趙超論文は、直接的には『文物』一九九七年二期「山西靈南村宋代軛雕墓」に報告された、傍題のない五号から二十四号までの軛雕の、孝子図象の考証を主題とするものだが、段鵬琦論文を承け、考証の背景説明として、「宋、遼、金、元的北方墓」における「類似的孝義故事図画及雕刻」を描いて、

在五十年代以来発掘の宋代墓葬中、曾經多次発現了孝

子題材的墓室壁画和石棺線刻画

と言い、

在山西、河南、北京、遼寧、甘肅等地的遼、金、元墓葬中曾經多次発現過彩繪壁画与石雕線刻的二十四孝(包括不完全的孝子図)。如

として、孝子図を含む宋墓十二例、遼・金(元)墓二十一例(二十二種)、計三十三例(三十四種)を上げ、且つ、それぞれの参考文献を示されたものである。段鵬琦論文は一九九〇年までの出土報告を扱い、趙超論文は一九九七年までのものを対象としていて、趙超論文は十例を加える結果となっている(宋七、遼・金三。但し、趙超論文には、広元南宋墓雜劇大曲石刻が省かれている。なお高橋論文により、さらに二例を加えることが出来る)。趙超論文は、宋、遼・金の孝子図研究に実質的な足場を提供する、卓越した論攷であり、小稿は、基本的に趙超論文により、上記諸氏の説をも参照しつつ、また、以後気の付いた二、三の例を加える形で、前稿に倣って、宋、遼・金の孝子図の一覧を試みる。

繰り返しとなるが、孝子伝図の遺品の時代を、仮にⅠ後漢、北魏、Ⅱ宋、遼・金の二つに分ける。さらに、Ⅱから遼・金を別立して、Ⅲとする。小稿の対象とする孝子図は、Ⅱ宋、Ⅲ遼・金のものである。前稿同様、以下の記述方法として、孝子名、遺品名を番号化し(番号一覧を下に掲げる)、遺品(遺跡の形のものが多い)一件毎にその摘要

(制作の時期、形式、図の数、榜題の有無等)を記す(原則として、出土時期、出土地は省く)。榜題は、遺品の内容を判断する決め手となる他、文献との比較研究上、極めて重要なものである。務めて採録することとし、摘要中の孝子番号下に「()」の形で掲出する。参考文献は、遺品番号を副えて、注に回してある。最後に、それらを孝子毎の孝子図一覧に纏め、表として掲げた。以下、遺品中の孝子名は全て番号によるが、その孝子名の番号は次の通りである(1-45は、陽明本孝子伝等に拠る。46-58は、1-45に漏れた竜谷大学本全相二十四孝詩選の孝子名である。59-67は、孝行録に拠る)

1 舜	11 蔡順	21 劉敬宣	31 許牧
2 董永	12 王巨尉	22 謝弘微	32 魯義士
3 刑渠	13 老萊之	23 朱百年	33 閔子騫
4 伯瑜	14 宗勝之	24 高柴	34 蔣詡
5 郭巨	15 陳寔	25 張敷	35 伯奇
6 原谷	16 陽威	26 孟仁	36 曾參
7 魏陽	17 曹娥	27 王祥	37 董黯
8 三州義士	18 毛義	28 姜詩	38 申生
9 丁蘭	19 歐尚	29 叔先雄	39 申明
10 朱明	20 仲由	30 顔烏	40 禽堅

41 李善	48 唐夫人	55 吳猛	62 魯義姑
42 羊公	49 楊香	56 張孝張礼	63 鮑山
43 東婦節女	50 黄香	57 田真	64 薛包
44 眉間尺	51 王褒	58 陸績	65 鄧攸
45 慈烏	52 朱寿昌	59 劉殷	66 茅容
46 漢文帝	53 刻子	60 王武子	67 江革
47 黄山谷	54 曹黔婁	61 劉明達	その他
			未詳

小稿で扱う宋、遼・金の孝子図は、左記の五十一件である(宋十九、遼・金三十二)。その五十一件を、宋、遼・金墓一覧として示せば、次の通りである。

宋、遼・金墓等一覧

II 宋墓

- II-1 洛陽出土北宋画像石棺
- 1-2 重慶井口宋墓
- 1-3 滎陽司村宋代壁画墓
- 1-4 河南林県城関宋墓
- 1-5 洛陽北宋張君墓画像石棺
- 1-6 新安県石寺李村宋墓
- 1-7 西吉県西吉灘黒虎溝宋墓
- 1-8 嵩県北元村宋代壁画墓

― 9 鞏県西村宋代石棺

― 10 林県一中宋墓

― 11 河南洛寧北宋樂重進画像石棺

― 12 山西長治市五馬村宋墓

― 13 河南宜陽北宋画像石棺

― 14 山西壺関南村宋代軀雕墓

― 15 河南新密市平陌宋代壁画墓

― 16 山西潞城県北関宋代軀雕墓

― 広 広元南宋墓雜劇大曲石刻

― 世、世界のタイトル博物館蔵画像軀

― 奥、略画孝子伝石棺

III 遼・金墓

III ― 1 山西絳県裴家堡金墓

― 2 山西垣曲東鋪村金墓

― 3 蘭州中山林金代軀雕墓

― 4 遼寧遼陽県金廠遼画像石墓

― 5 錦西大臥鋪遼金代画像石墓

― 6 山西芮城永樂宮旧址宋德方、潘德冲墓

― 7 山西侯馬金墓

― 8 山西新絳寨里村元墓

― 9 河南焦作金墓

― 10 北京市斎堂遼壁画墓

― 11 遼寧鞍山市汪家峪遼画像石墓

― 12 甘肅漳県元代汪世顯家族墓

― 13 山西長治市故漳金代紀年墓

― 14a 山西長子県石哲金代壁画墓

― 14b 山西長治市捉馬村元代壁画墓

― 15 山西永濟金代貞元元年青石棺

― 16 山西聞喜県金代軀雕壁画墓

― 17 山西聞喜寺底金墓

― 18 焦作電廠金墓

― 19 山西長治安昌金墓

― 20 山西汾陽金墓

― 21 濟南柴油機廠元代軀雕壁画墓

― 22a 甘肅臨夏金代軀雕墓

― 22b 『甘肅宋元画像軀』所収画像軀

― 22c 清水電峽金墓等二十四孝図

― 23 山西稷山金墓

― 24 山西新絳南范庄金墓

― 25 曲沃97東韓一弓墓

― 26 山西沁県金代軀雕墓

― 27 滎陽杜常村金代軀雕墓

― 羅 羅振玉藏孝子列女軀

― 鳥 鸞峰石室墓等

以下、左の遺品番号に従って、その摘要を記す（摘要中の孝子番号の掲出は、原則として報告書の順序を踏襲する）。

II 宋墓

II-1 洛陽出土北宋画像石棺^⑧

北宋宣和五（一一三三）年、線刻、十五幅、榜題有。17
〔曹娥〕、57〔田真〕、56〔趙孝宗〕、63〔包山
（中）〕、26〔孟宗〕、6〔元覺〕、以上、右幫、60
〔王舞・（午子）〕、28〔江糸（糸）〕、9〔丁欄（欄）〕、
1〔舜子〕、5〔郭巨〕、2〔董永〕、4〔韓伯瑜
（俞）〕、以上、左幫、58〔陸續〕、27〔王祥〕、以上、
後槽）。

II-2 重慶井口宋墓^⑨

北宋末—南宋末、浮雕、九幅、榜題無（榜のみのものあり、剥落か）。一号墓に四幅、27〔王延〕、28、58（以上、右壁）、未詳（左壁）。二号墓に五幅、未詳（汴州李子孝女〔唐書載〕と説明される）、5（以上、右壁）、20、33、9（以上、左壁）。

II-3 滎陽司村宋代壁画墓^⑩

北宋（一一〇七—一一二一年間）、壁画、十九幅、榜題有。

6〔元覺行孝〕、28〔姜詩行孝〕、53〔劔子行孝〕、以上、六角墓室南壁）、13〔老萊子行孝〕、57〔田真行孝〕、4〔韓伯楸行孝〕、以上、西南壁）、2〔董永行孝〕、1〔舜子行孝〕、63〔鮑山行孝〕、以上、西北壁）、36〔曾參行孝〕、33〔閔子襄行孝〕、27〔王祥行孝〕、以上、北壁）、26〔孟宗行孝〕、9〔丁欄行孝〕、62〔魯義姑行孝〕、59〔劉殷行孝〕、以上、東北壁）、58〔陸續行孝〕、5〔郭巨行孝〕、60〔王武行孝〕、以上、東南壁）。

II-4 河南林県城関宋墓^⑪

北宋（一〇六八—一一一八年間）、甌雕、二十四幅、榜題無。49、58（以上、墓室北壁西窓下）、65、2（以上、東窓下）、28、51、36、6、57、56（以上、西壁南欄）、53、47、62、9、11、1（以上、中欄）、13、5、4、59、27、63（以上、北欄）、26、17（以上、東壁下部）。

II-5 洛陽北宋張君墓画像石棺^⑫

北宋崇寧五（一一〇六）年、線刻、二十四幅、榜題有。56〔趙孝宗〕、5〔郭巨〕、9〔丁蘭〕、61〔劉明達〕、1〔舜子〕、17〔曹娥〕、26〔孟宗〕、11〔蔡順〕、27〔王祥〕、2〔董永〕、以上、右幫、62〔魯義姑〕、59〔劉殷〕、6〔孫悟元覺〕、53〔睽子〕、63〔鮑

山)、36 (曾參)、28 (姜詩)、60 (王武子妻)、49
(楊昌)、57 (田真)、以上、左幫、4 (韓伯俞)、33
(閔損)、58 (陸續)、13 (老萊子)、以上、後檔。

II-6 新安県石寺李村宋墓^④

北宋宣和八(一一二六)年の李村一号宋墓の、「甬道両側」に「浮彫孝子図四幅」ありとされる。

II-7 西吉県西吉灘黑虎溝宋墓^⑤

北宋、甌雕、六幅、榜題無(固原博物館蔵)。26、5、27
(以上、東壁)、28、51、17 (以上、西壁)。

II-8 嵩県北元村宋代壁画墓^⑥

北宋晚期、壁画、十五幅、榜題無。4 (甬道内壁)、59、
9、46、2、17、1 (以上、墓室東壁)、27、57 (以上、
北壁)、53、6、5、13、26、56 (以上、西壁)。

II-9 鞏県西村宋代石棺^⑦

北宋宣和七(一一二五)年、線刻、二十四幅、榜題有。28
(詩妻奉姑)、6 (元覺迴筭)、57 (田真)、17 (曹娥
泣江)、26 (孟宗哭竹)、13 (萊老(老萊)奉親)、27
(王祥臥冰)、11 (蔡母怕雷)、49 (楊香跨虎)、56

(趙孝宗)、62 (魯義姑)、61 (劉明達)、以上、右幫、
9 (丁蘭刻木)、2 (董永売身)、1 (舜子事父)、
5 (郭巨埋兒)、53 (睽子悲前)、63 (鮑山起熟)、
59 (劉殷泣江)、33 (子鸞諫父)、4 (伯榆泣杖)、
36 (曾參母齒指)、60 (武妻事家)、58 (陸續懷桔、
以上、左幫)。

II-10 林県一中宋墓^⑧

北宋(一〇八六一一一二年間)、壁画、十二幅、榜題無。
49、27 (以上、八角前室十二層の第九層東南壁)、13、61
(以上、東北壁)、59、57 (以上、西北壁)、63、6 (以上、
西南壁)、26、未詳 (以上、八角東室西北壁)、36、未詳
(以上、西南壁)。

II-11 河南洛寧北宋樂重進画像石棺^⑨

北宋政和七(一一一七)年、線刻、二十二幅、榜題有。58
(陸續)、27 (王祥)、5 (郭巨)、59 (劉殷)、60
(王武子(妻))、56 (趙孝宗)、36 (曾參)、62 (魯
義姑)、9 (丁蘭)、26 (孟宗)、以上、右幫、61
(劉明達)、57 (田真)、2 (董永)、49 (楊香)、
63 (鮑山)、53 (睽子)、28 (姜詩)、13 (老萊子)、
4 (韓伯瑜)、6 (元角)、以上、左幫、17 (曹娥)、

33 「閔子騫」、以上、後檔。

II-12 山西長治市五馬村宋墓。

北宋元豐四（一〇八一）年、甌雕、十五幅、榜題無。57
（1号甌雕）、4（2号）、27（3号）、未詳（4-8号）、
1（9号）、9（10号）、61（11号）、67（12号）、62（13号）、
2（14号）、56（15号）。

II-13 河南宜陽北宋画像石棺。

北宋徽宗期、線刻、十幅、榜題有。61「劉明達」、53
「啖子」、28「姜詩」、63「鮑山」、17「曹娥」、以上
右幫）、57「田真」、13「老萊」、1「舜子」、4
「韓伯」、6「袁覺」、以上、左幫）。

II-14 山西壺関南村宋代甌雕墓。

北宋元祐二（一〇八七）年、甌雕、二十幅、榜題無。主室
東西南壁二十四幅の内、武士二、女侍二幅を除く、第五
二十四号甌雕二十幅についての、趙超論文の結論等を次に
示す。36（5号甌雕）、5（6号）、6（7号）、1（8号）、

4 28 60等か（9号）、53（10号）、57（11号）、2（12号）、
67（13号）、13（14号）、9（15号）、11（16号）、62（17号）、
59（18号）、58（19号）、26（20号）、27（21号）、49（22号）、

17（23号）、63（24号）。

II-15 河南新密市平陌宋代壁画墓。

北宋大観二（一一〇八）年、壁画、四幅、榜題有。56
「行孝趙孝宗」、八角墓室東南壁墓頂）、63「行孝鮑山」、
東壁墓頂左側）、27「王相」、右側）、33（西壁墓頂）。

II-16 山西潞城縣北関宋代甌雕墓。

宋代、甌雕、二十四幅、榜題無。17、20、51、49、4、未
詳、11、1、56、27、57、60、2、5、58、13、28、26、
53、63、9、6、33、36。

II-17 広元南宋墓雜劇大曲石刻。

・〇七二医院宋嘉泰四年墓

南宋嘉泰四（一二〇四）年、浮雕、六幅、榜題無。48、36、
59、5、9、26。

・羅家橋南宋墓

南宋、浮雕、四幅、榜題無。49、2、6、4。

II-18 世界のタイル博物館蔵画像甌。

宋代、甌雕、九幅、榜題無。9（二幅）、60、57、49、20、
27、33、58。

Ⅱ—輿略画孝子伝石棺^③

五代宋初（もう少し降るか）、線刻、三幅（但し、右幫部分図に拠る）、榜題有（大阪山中商会蔵）。59（劉殷行孝）、13（老萊行孝）、36（曾參行孝）。

三

Ⅲ 遼・金墓

Ⅲ—1 山西絳県裴家堡金墓^④

金代、壁画、四幅、榜題有。5（郭巨行孝）、26（孟宗行孝）、以上、墓室北壁）、4（韓氏節孝）、西壁）、2（董永行孝）、南壁）。

Ⅲ—2 山西垣曲東鋪村金墓^⑤

金大定二十三年（一一八三）年、甌雕、十二幅、榜題無。墓室四壁に各三幅、東壁左から第一—十二塊と数えられる。36（第九塊）、27（第十塊）、1（第十二塊）、他未詳。或いは、9（第四塊）、57（第五塊）、62（第八塊）等か。

Ⅲ—3 蘭州中山林金代甌雕墓^⑥

金明昌（一一九〇—一九六）年間、甌雕、四幅、榜題無。27、6（以上、主室西壁）、5、26（東壁）。

Ⅲ—4 遼寧遼陽県金廠遼画像石墓^⑦

遼後期、石刻、十八幅、榜題無。33、56（王密捨子救弟とされる）、66、28、7、27、51（聞雷泣墓とされる）、26、49、53、5（以上、右壁）、1（故事不詳とされる）、6、62、9、2、64、11（以上、左壁）。

Ⅲ—5 錦西大臥鋪遼金代画像石墓^⑧

遼金代の両座八角墓（一、二号墓）、浮雕十三面（一号墓六、二号墓七面）の孝子図が報告される。一号墓には榜題有（但し、剥落が甚だしい。二号墓無。）その推定し得る、十三面三十三幅（一号墓十八、二号墓十五幅）についての私案を記せば、以下の通りである。

・一号墓

53、51、17（以上、墓門右起第一壁）、1、5（以上、第二壁）、未詳（母□□）、6、27（王□、以上、第三壁）、61、66（以上、墓門左起第一壁）、2（西天□）、49、57（以上、第二壁）、26、60、9、62、27（以上、第三壁）。

・二号墓

49、26（以上、北壁）、57、4、62、27（以上、墓門右起第一壁）、61、28（以上、第二壁）、9、51、6（以上、第三壁）、27（墓門左起第一壁）、1、36（以上、第二壁）、5（第三壁）。因みに、『考古』誌の報告には、53、2、5、

6、27、66、26（一号墓）、26、27、5、6（二号墓）を指摘し、段鵬琦論文には、1、53、5、5、2、26、27、49、6、60、66（一号墓）、1、36、5、2、27、49、4、6、62（二号墓）を指摘して、一号墓に「另有二幅内容待考」、二号墓に「另有五幅内容待考」（附表備注）とされるように、当遺品についてはなお未詳画像等が多く、さらなる検討を必要とする。

Ⅲ-6 山西芮城永樂宮旧址宋徳方、潘徳冲墓。

・宋徳方墓

元至元十二（一二七五）年、線刻、四幅、榜題有。2

（董永）、5（郭巨）、26（孟宗）、27（王祥）、以上、石槨後壁）。

・潘徳冲墓

右と同時代、線刻、二十四幅、榜題有。13（老萊行孝）、36（曾參行孝）、57（田真行孝）、6（元角行孝）、5（括拒行孝）、56（趙孝宗行孝）、59（劉鷹行孝）、62（魯義姑行孝）、49（楊香行孝）、63（鮑山行孝）、17（曹娥行孝）、11（蔡順行孝）、以上、石槨右側）、2（董永行孝）、33（閔子騫行孝）、26（孟宗行孝）、1（舜子行孝）、58（陸稷行孝）、4（韓柏楡行孝）、60（王武子行孝）、27（王祥行孝）、61（劉明達行孝）、

9（丁欄行孝）、53（任子行孝）、28（董師行孝）、以上、石槨左側）。

Ⅲ-7 山西侯馬金墓。

金大安四（一二二二）年、軀雕、四幅、榜題無。57、36、2、17（以上、三一号墓墓室西壁、格子門障水板）。

Ⅲ-8 山西新絳寨里村元墓。

元至大四（一二三一）年、軀雕、十二幅、榜題無。62、33、57（以上、東壁上層左）、未詳、60、1（以上、右）、6、5、11（聞雷泣墓とされる。以上、西壁上層左）、26、27、53（以上、右）。

Ⅲ-9 河南焦作金墓。

金承安四（一一九九）年、線刻、十一幅、榜題有。鄒瓊画像石墓について、「孝行」「故事図十二幅」、「均題上人物姓名」と言い、17、9、49、5、27（王祥）、26（孟宗）、33、2（董永）「等」が上げられる。詳細未詳。

Ⅲ-10 北京市斎堂遼壁画墓。

遼天慶元（一一一一）年、壁画、三幅、榜題無。9、56（または、11）、6（以上、西壁）。

Ⅲ-11 遼寧鞍山市汪家峪遼画象石墓^①

遼晚期、浮雕、十九幅、榜題無。6（八角墓室右壁第一上石板）、1（下石板）、49（第二上石板）、47（下石板）、62（下）、66（第二立柱）、56（第三上石板）、33（下石板）、48（正壁上石板）、5（下石板左）、67（右）、36（左壁第三上石板）、27（下石板右）、4（左）、51（第二上石板右）、9（左）、11（王密舍子救弟とされる。下石板）、53（第一上石板）、2（下石板）。

Ⅲ-12 甘肅漳県元代汪世顯家族墓^②

元代墓 M 8、M 9、M 11、M 13 について、墓室四壁下部の花輓が「多属于《二十四孝》内容」とされ（簡報之一）、M 7 を除く汪家墳墓十七座について、墓壁の花輓が「花紋為……《二十四孝》等」とされる（簡報之二）。詳細未詳。

Ⅲ-13 山西長治市故漳金代紀年墓^③

金大定二十九（一一八九）年、壁画、二十二幅、榜題有（未詳）。6、57、60、1、33、61（以上、墓室北壁）、11、36、13、27、17、28、56、58（以上、東壁）、9、2、26、未詳（夢見父面とされる）、49、4、5、63（以上、西壁）。左に、『考古』誌における「壁画内容」説明文を摘記しておくが、榜題ではないようである。「元角拉芭勸父」「田氏

分居」「武妻刮股」「大舜耕田」「閔子賽」「劉明達」「蔡順」「曹三問母」「老萊子」「王祥臥冰」「曹娥哭江」「姜師婆」「趙孝宗」「遺親懷桔」「丁蘭刻木」「董永自売」「孟宗哭竹」「夢見父面」「楊香女打虎」「伯俞泣杖」「郭巨埋兒」「鮑山」。

Ⅲ-14a 山西長子県石哲金代壁画墓^④

金正隆三（一一五八）年、壁画、二十四幅、榜題有。1（舜子）、61（劉明達）、2（董永）、63（鮑山）、56（趙孝宗）、49（楊昌）、6（元覺）、28（姜師）、62（魯義姑）、36（曾參、以上、墓室西壁）、11（蔡順）、33（閔子騫）、53（睽子）、58（陸績、以上、南壁）、59（劉殷）、9（丁蘭）、27（王祥幼亡其父惟奉其母母染沈疴之）、5（郭巨至孝于母持□□子侵母食）、60（王武子為国防御未回其妻孝患瘦瘵至其新婦）、4（韓伯瑜奉母常望教訓之瑜非□□一日母訓□勸泣母日教□）、57（田真兄弟三人其家大富父母早亡弟欲分庭）、26（孟宗少无父孤養其母年老）、17（曹娥投江死不獲尸向江岸号江十晝夜娥亦投江）、13（老萊子、以上、東壁）。27 以下に記される榜題等、孝子伝、二十四孝の本文研究にとっても、極めて貴重なものである。なお『文物』誌の報告末尾に、「此墓的《二十四孝》内容完整、并題有姓名、与一九五七年发现的山西沁源県正中村金大定八年墓所绘二

十四孝図相同」と言い、その注に「此墓資料現存山西省考古研究所」(注①)とされる。

14b 山西長治市捉馬村元代壁画墓^⑧

元大德十一年(一二三〇)年、壁画、四幅、榜題無。26 (M 2、西壁右)、9 (北壁左)、4 (右)、27 (東壁左)。

III-15 山西永濟金代貞元元年青石棺^⑨

金貞元元年(一一五三)年、二十四幅、線刻、榜題有。62 (魯義姑)、11 (蔡順)、63 (鮑山)、53 (睽子)、5 (郭巨)、33 (閔子愼)、9 (丁欄)、36 (曾參)、4 (韓百榆)、17 (曹娥)、2 (董永)、1 (舜子)、以上、右幫、60 (王武子)、59 (劉殷)、《殷》字欠末筆、乃避宋太祖趙匡胤之父趙弘殷的諱とされる)、57 (田真)、49 (楊香)、61 (劉明達)、27 (王祥)、6 (袁寛)、56 (趙孝宗)、26 (孟宗)、28 (姜詩)、51 (王恂)、13 (老来子)、以上、左幫)。

III-16 山西聞喜県金代甌雕壁画墓^⑩

・小羅庄一号墓

金正隆(一一五六-一一六二)年間、甌雕、七幅、榜題無か。36、61、60、26、27、17、59 (以上、墓室四壁第一層棋眼壁上)。「四壁第一層棋眼壁上各嵌孝子故事甌雕兩块、絵画

二幅。這些甌雕多被打壞、絵画幾乎全部脱落。根拠残存画面与榜題、有《曾母嚙子痛心》、《劉明達売子孝父母》、《王武子割股奉親》、《孟宗哭竹生笋》、《王祥臥水求魚》、《曹娥沿江哭父》及《劉殷行孝》等内容」とあるに拠る。詳細未詳。

・小羅庄二号墓

金大定二十八(一一八八)年、甌雕、榜題無か。62、67、1 (以上、西壁) が加わる。「四壁上部第一層棋眼壁上各以图案花边砌长方框、内雕孝子故事図三幅、其内容除与一号墓相同者外、尚有《魯義姑捨子救弟》、《江革行庸》、《大舜耕田》等」とあるに拠る。また、六号墓について、「四壁第一層棋眼壁均雕孝子故事図：北壁兩幅、中間夾一花甌：南壁兩幅、中間夾一灯台：東西兩壁各為三幅、其内容与一、二号墓内孝子故事基本相同」とも言う。詳細未詳。

・下陽村金墓

金明昌二(一一九二)年、壁画、六幅、榜題有(剥落)。26、36、2、5 (以上、墓室東壁)、13、56 (以上、南壁)。

III-17 山西聞喜寺底金墓^⑪

金中期、壁画、十一幅、榜題有。6 (元角)、5 (郭巨)、61 (劉明達)、以上、墓室北壁)、49 (楊香)、57 (田真)、26 (孟宗)、以上、東壁)、53 (炎子)、2

〔董永〕、17〔曹娥〕、以上、南壁）、9〔丁蘭〕、27
〔王祥〕、以上、西壁）。

Ⅲ-18 焦作電廠金墓。

金大定二十九（一一八九）年、浮雕、三幅、榜題無。59、
5、67（以上、墓室北壁）。

Ⅲ-19 山西長治安昌金墓。

金明昌六（一一九五）年、壁画、二十四幅、榜題有。17
〔曹娥〕、5〔郭巨〕、56〔趙孝宗〕、13〔老萊子〕、
26〔孟宗〕、36〔曾參〕、9〔丁蘭〕、1〔舜子〕、
4〔韓伯俞〕、2〔董永〕、63〔鮑山〕、60〔王武子
妻〕、59〔劉殷〕、28〔姜師〕、以上、北壁、49〔楊
香女〕、62〔魯義姑〕、27〔王祥〕、11〔蔡順〕、
〔田真〕、以上、東壁）、61〔劉明達〕、6〔元角〕、
58〔陸續〕、33〔閔子騫〕、53〔琰子〕、以上、西壁）。

Ⅲ-20 山西汾陽金墓。

金早期、彩繪軀雕、二幅、榜題無。5（M5墓室北壁）、
27（南壁）。

Ⅲ-21 濟南柴油機廠元代軀雕壁画墓。

元代、壁画、十三幅、榜題無。60、5（以上、西壁）、1、
27（以上、北壁）、2、4（以上、東壁）、49、36、61、26、
6、59、62（以上、頂部）。

Ⅲ-22a 甘肅臨夏金代軀雕墓。

金大定十五（一一七五）年、軀雕、二幅、榜題無。6、27
（以上、甬道兩壁）。

22b 『甘肅宋元画像軀』所収画像軀。

同書「二十四孝」図版一—六四（3—66頁）。解説9頁に
は、22aの図版も収める。残念なことに、出土地その他に関
するデータを欠く。以下、（ ）内は、同書頁数、榜題で
ある。62（3頁）、49（3）、9（3）、20「丁蘭刻木」、26
「丁蘭刻木」、38、41、63、67（4）、36（4、28、40）、
11（4、21「□□分樞」、2（5、13、26「董永売身」、
52、65）、58（5、24「六積懷橘」、46、未詳（5、7、
9、59（6、13（6）、53（8、33）、6（8、14「元覺
還俗」、29、34、37「田覺」、45、48、54、56）、60（8）、
1（9）、5（9、16「郭巨埋子」、22「郭巨埋子」、27
「郭巨埋子」、30、31、32、39、50、66）、57（10、15、29、
49、58）、26（10、17「孟宗哭笋」、25「孟宗哭笋」、35、
44、55、59、60、62）、27（10、18「王祥臥氷」、27「王祥

臥水」、30、「王祥臥水」、42、43、51、53、64、17
(11)、51 (12)、63 (19「抱山担父」)、4 (23「伯夷泣杖」、
47、61)、28 (57)。

— 22c 清水電峽金墓等二十四孝図[※]

魏文斌氏等による「甘肅宋金墓」二十四孝図与敦煌遺書
『孝子伝』所収図1—26を、以下に示す。1、33 (「閔子
騫□孝」、13 (「老□／行孝」、53 (「剡子行孝／嘉
□人也」、「国王出游」、36 (「曾參行孝／興魯人也」、
62 (「魯義□行／孝魯國人也」、6 (「元覺」、「元覺父
在山」、緹縈、劉平、2、57、28 (「姜詩行孝／□琼府人
也」、11 (「蔡□行孝／河南人也」、56 (「趙孝□／沛
□也」、17 (「曹娥哭江／会稽人也」、5、27、9
(「丁蘭／行孝」、58 (「陸續行孝／吳郡人也」、26 (「孟宗
□」、63 (「鮑山□」、将官)、49 (「楊香父」、「楊
香□人也」、59 (「□孝」、「劉□」、4、60
(「楊武子行孝／係河陽人也」、61 (「官人買劉明達子」、
「劉明達行孝／□人也」。

Ⅲ—23 山西稷山金墓[※]

・馬村M1

金前期、軛雕、二幅、榜題無 (山西金墓博物館蔵)。11、
56 (以上、墓室北壁)。

・馬村M2

金前期、軛雕、四幅、榜題無 (山西金墓博物館蔵)。53、
9、4、59 (以上、墓室南壁)。

・馬村M4

『文物』には、「二十四孝故事泥塑。軛灰色、人物高二〇
厘米左右。全部置于馬村M4四周回廊下。自有編號、自東
辺南端逆時針方向順序排列」とされ、二図(11、28)を載
せる。全容は、近刊『平陽金墓軛雕』図版245—268及び、研
究篇(五)に詳しい。金前期の陶塑二十四体が揃い、原番号
の付されていることは、当時の二十四孝図を考える上で、
大変貴重な遺品と言えよう。以下、() 内にその原番号
と榜題を示す (山西金墓博物館蔵)。1 (一)、28 (二)、
53 (三)、17 (四)、5 (五)、27 (六)、59 (七)、
49 (八)、56 (九)、趙孝宗)、62 (十)、33 (十
一)、2 (十二)、63 (十三)、57 (十四)、9 (十
五)、丁蘭)、26 (十六)、13 (十七)、58 (十八)、
4 (十九)、60 (二十)、6 (二十一)、36 (二十
二)、61 (二十三)、11 (二十四)。

Ⅲ—24 山西新絳南范庄金墓[※]

金晚期、浮雕、二十四幅、榜題有 (剝落)。「文物」に、墓
室南壁の「上層為二十四孝図、分三排、排八幅、均為浮雕、

原有題名且経彩絵、但已漫漶剥落、字迹不弁。除個別者外与稷山馬村M4の二十四孝雕塑図完全相同」と言う。全容は、『平陽金墓軀雕』図版273-297に詳しい。11、26、61、1、57、5、36、6、49、9、53、4、33、62、28、58、27、2、60、13、56、17、59、63。

Ⅲ-25 曲沃沃東韓一号墓^⑧

金代、軀雕、十幅、榜題無（北京古代建築博物館蔵、趙超氏教示）。27、51、9、17、26、5、6、60、61、63。

Ⅲ-26 山西沁県金代軀雕墓^⑨

金中期、彩絵軀雕、二十四幅、榜題有。二十四幅が揃い、さらに榜題によって内容の確定出来る点、Ⅲ-24の馬村M4陶塑ともども、貴重な遺品とすべきである。5（□□埋子）、60（□□武帝為婆割股）、58（陸績行孝）、以上墓室西北壁）、6（元覚□掉床）、28（姜詩行孝）、1（舜子□□山□□）、以上、北壁）、63（鮑山背母□熟）、9（丁蘭剖木為母）、56（趙孝宗將小替大）、以上、東北壁）、49（楊香女為父騎虎）、62、26（以上、東壁）、57（田真行孝）、13（悦老□□）、36（以上、東南壁）、61（□□母□□）、33（閔子騫行孝）、59（以上、南壁）、17（孟宗為母思竹笋）（26に付くべきもの）、4

（韓伯瑜行孝）、2（□□思葬）、以上、西南壁）、53（睽子為母思鹿乳）、11（蔡順為母採椹）、27（王相臥水為母□□）、以上、西壁）。

Ⅲ-27 滎陽杜常村金代軀雕墓^⑩

金代、軀雕、四幅、榜題無。27、5、63、6。

Ⅲ-羅 羅振玉氏蔵孝子烈女軀^⑪

民国五（一九一六）年刊の『古明器図録』序に、「彫刻古孝子列女像、旁刻姓名間有墨書者、已漫不可弁。乃五年前出中州古壙中、前此考古家所未嘗見者也」とあり、鳥居龍藏氏は「おそらく遼代の墳墓である」と言う（注③前掲書）。遼代、軀雕、二十四幅、榜題有。5、51、1、67、36（曾參）、26（孟宗）、59（劉股）、9（丁蘭）、63（鮑山）、28（姜詩）、61（劉明達）、56（趙孝宗）、60（王武子）、11（蔡順）、57（田真）、53（琰子）、13（老来）、27（王祥）、62（魯義姑）、17（曹娥）、49（楊昌女）、以上、孝子軀一、四一六、八一二十、烈女軀一（四）、未詳（孝子軀二、三、七）。

Ⅲ―鳥 鸞峰石室墓等

・鸞峰石室墓

前述。遼代、線刻（浮雕）、十一幅、榜題無。59（A壁）、9、26（以上、B壁）、49、67（以上、C壁）、5、17（以上、D壁）、王延、51、27（以上、E壁）、1（G壁）。

・鞍山石室墓

二幅、榜題無。51、27（以上、B壁）。

・鞍山その他出土の画像石

五幅、榜題無（L石を除く）。5（A石）、51（B石）、57（D石）、33（F石）、51（「子（梁）天姜比舟処」へ二字目、子は鳥居説、梁は容庚説。「此」か、L石）。

上記五十一件に関する摘要に基づき、前稿に倣って、それらを孝子毎の一覧に纏めたのが、末尾の宋、遼・金孝子図一覧である。表の縦軸は前稿と同じものだが、46以下、二十四孝系の孝子を補ってある（全相二十四孝詩選、孝行録に拠る）。67までの通し番号を付す他、58までの孝子名左に、全相二十四孝詩選の番号、59以下の孝子名左に、孝行録の番号（後賛章も含む）を示した。横軸には、当該孝子図の所在を表す遺品番号を、Ⅱ、Ⅲに分けて配してある。榜題等については、その所在番号と孝子番号とを用い、摘要に戻って確認出来る。

四

この宋、遼・金孝子図一覧を、前稿後漢、北魏孝子伝図一覧と較べてみると、一見して気付くのは、大幅な孝子図の入れ替わりの起きていることである。端的には、46以下の孝子図は、後漢、北魏のそれには見当たらなかったものであり、逆に3刑渠、8三州義士、10朱明、12王巨尉、37伯奇、37董黯、38申生、39申明、41李善、42羊公、43東婦節女、44眉間尺、45慈烏などは、宋、遼・金のそれには見えなくなっている。また、17曹娥、26孟仁、27王祥、28姜詩などは、後漢、北魏の孝子伝図に、絶えて遺品の見当たらなかったものだが、宋、遼・金のものは、圧倒的に数が増加している。そして、例えば17曹娥以下、孝子名の左を見ると、いずれも二十四孝の番号が対応しており、対照的に、例えば3刑渠以下には、二十四孝の番号がない。さらに46漢文帝以下、また、59劉殷以下を加えれば、宋、遼・金の孝子図は、二十四孝図として描かれたものであることが、歴然としている。つまり、3刑渠以下は、言わば孝子伝系の孝子であり、非二十四孝系であったため、描かれなくなってしまったものらしい。後漢、北魏孝子伝図一覧と宋、遼・金孝子図一覧の二つの表は、文学史の上で起きた孝子伝から二十四孝への交替が、孝子伝図の流れにおいて

も、孝子伝図から二十四孝図への変化を促したことを、明確に物語っている。後漢、六朝に盛んであった孝子伝図の終焉である。

さて、二十四孝は、元代以降、大きく三つの系統の存在を確認することが出来る。その三系統は、

(一) 全相二十四孝詩選系

(二) 日記故事系

(三) 孝行録系

である。^②その三系統の内容を、孝子名によって以下、簡単に紹介しよう。(一)全相二十四孝詩選系は、次の通りである(竜谷大学本に拠る)。

- | | | | |
|-------|--------|--------|---------|
| 1 大舜 | 7 王祥 | 13 董永 | 19 蔡順 |
| 2 漢文帝 | 8 老萊子 | 14 黄香 | 20 曹黔婁 |
| 3 丁蘭 | 9 姜詩 | 15 王裒 | 21 呉猛 |
| 4 孟宗 | 10 黄山谷 | 16 郭巨 | 22 張孝張礼 |
| 5 閔損 | 11 唐夫人 | 17 朱寿昌 | 23 田真 |
| 6 曾参 | 12 楊香 | 18 刻子 | 24 陸續 |

(25) 伯瑜

(二) 日記故事系は、次の如くである(万曆三十九年版巻頭の二十四孝に拠る)。

- | | | | |
|-------|--------|--------|--------|
| 1 大舜 | 7 刻子 | 13 老萊子 | 19 姜詩 |
| 2 漢文帝 | 8 江革 | 14 楊香 | 20 王祥 |
| 3 曾参 | 9 陸續 | 15 朱寿昌 | 21 曹黔婁 |
| 4 閔損 | 10 唐夫人 | 16 王裒 | 22 黄香 |
| 5 仲由 | 11 呉猛 | 17 丁蘭 | 23 蔡順 |
| 6 董永 | 12 郭巨 | 18 孟宗 | 24 黄山谷 |
- 最後の(三)孝行録系(前贊章)は、次のようになっている(南葵文庫本に拠る)。

- | | | | |
|-------|-------|--------|--------|
| 1 大舜 | 7 孟宗 | 13 王武子 | 19 魯義姑 |
| 2 老萊子 | 8 劉殷 | 14 曹娥 | 20 趙孝宗 |
| 3 郭巨 | 9 王祥 | 15 丁蘭 | 21 鮑山 |
| 4 董永 | 10 姜詩 | 16 劉明達 | 22 伯瑜 |
| 5 閔損 | 11 蔡順 | 17 元覺 | 23 刻子 |
| 6 曾参 | 12 陸續 | 18 田真 | 24 楊香 |
- 目下措定し得る、テキストとしての右記二十四孝の三系統と、小稿で扱った宋、遼・金の二十四孝図との関係を問うことが、今後に残された大きな課題となる。

金文京氏はかつて、

『孝行録』本「二十四孝」が郭居敬本よりも早く、主に中国の北方に行われ、それが高麗にもたらされたものである

或いは、

『孝行録』本「二十四孝」の……金代よりも早く、北
宋期にはすでに成立していたことが、出土資料によっ
て明らかである〔る〕

との説を示されたことがある。^⑧卓見であり、今後の研究方
向を示唆されたものとして、従うべき説かと思われる。例
えばⅡ-5洛陽北宋張君墓画像石棺（北宋崇寧五（一一〇
六）年）、Ⅱ-9鞏県西村宋代石棺（北宋宣和七（一二二
五）年）以下の二十四孝図で、孝行録と内容の一致するも
の多いことは、金氏説の正しさを裏付けよう。ところで、
例えばⅢ-15山西永濟金代貞元元年青石棺（金貞元元
（一一五三）年）の二十四孝図は、二十三図まで孝行録系
ながら、12陸續を欠き、代わって左幫に「王怖」図が見え、
それは、「左上雲端一雷公、右下一人伏地作守護之状」と
いう内容である^⑨。そして、王怖はおそらく王褒の宛字であ
ろうが、その王褒は、孝行録系には見えない孝子となつて
いる（全相二十四孝詩選系15、日記故事系16には見える）。
これは何故であろうか。或いは、例えば上述Ⅱ-9鞏県西
村宋代石棺の右幫には、「蔡母怕雷」が見え、これは11蔡
順図一般に見る、分樞譚を内容とするものではなく、畏雷
譚を描いたものである。孝行録11蔡順は、分樞譚、畏雷譚
（贊に見える）の二つの内容をもつが（全相二十四孝詩選
系、日記故事系は、分樞譚のみ）、この二譚の分岐は、ど

うやら孝子伝に溯るようだ。例えば所謂敦煌本孝子伝には、
分樞譚、嘗吐譚、飛火譚、怕雷譚が見えるのである。厄介
なのは、王褒にも同じ畏雷譚があることで（これも敦煌本
孝子伝に見える）、傍題のない二十四孝図を扱う時、蔡順
と王褒の畏雷譚は、一体どのように区別すればよいのであ
ろう。さらに言えば、始めに鸞峰の墓の画像Eについて述
べた王褒図は、実際に王褒図なのであるか。また、例え
ば江革は、日記故事系8にしか登場しない孝子であり、負
母譚を以て知られている。ところが、孝行録系21にしか登
場しない鮑山も、同じ負母譚を内容としている。さて、こ
れも鸞峰の墓の画像Cに関して考えた江革図は、本当に江
革図なのであるか。このように、画像の内容については、
なお様々な角度からより正確に解釈する必要がある、また、
テキスト、図像を両軸として、二十四孝の発生、分岐を辿
ることが、急務であるように思う。

付記

恩師佐野公治先生が、発行間もない趙超氏論文を御教
示下さらなければ、小稿は成らなかつたであろう。心か
ら御礼申し上げたい。

- ① 拙稿「孝子伝の図—後漢、北魏を中心とする—」(『説話文学研究』34、平成11年5月) 参照。また、遺品の極めて稀な隋唐期のそれについては、拙稿「唐代の孝子伝図—陝西歴史博物館蔵三彩四孝塔式缶について—」(『京都語文』6、平成12年10月) 参照。
- ② 中蘭英助氏「鳥居龍蔵伝 アジアを走破した人類学者」(岩波書店、平成7年)
- ③ 鳥居龍蔵氏「遠代の画像石墓」(鳥居龍蔵全集5、朝日新聞社、昭和51年)
- ④ 鳥居龍蔵氏「猴王孫呉空(遠代の壁画)」(鳥居龍蔵全集6、朝日新聞社、昭和51年)、「西遊記」図様を彫刻せる画像石」(鳥居龍蔵全集12、朝日新聞社、昭和51年)
- ⑤ 中野美代子氏「孫悟空の誕生 サルの民話学と「西遊記」(玉川大学出版部、昭和55年)
- ⑥ 「二十四孝詩選」(禿氏祐祥氏解説、全国書房、昭和21年)に拠る。
- ⑦ 金文京氏「孝行録」の「明達売子」について「二十四孝」の問題点—」(『汲古』15、平成元年6月)
- ⑧ 金文京氏「孝行録」と「二十四孝」再論」(『芸文研究』65、平成6年3月)
- ⑨ 高橋元治氏「金元墓の孝子図と元曲」(『未名』8、平成元年12月)
- ⑩ 段鵬琦氏「我国古墓葬中発現的孝悌図像」(『中国考古学論叢』所収、科学出版社、一九九三年)
- ⑪ 趙超氏「山西壺関南村宋代軀雕墓軀雕題材試析」(『文物』98・5)
- ⑫ Ⅱ-1. 楊大年氏「宋画像石棺」(『文物參考資料』58・7)、黃明蘭氏「洛陽出土北宋画像石棺」(『考古与文物』83・5、83年9月)
- ⑬ Ⅱ-2. 重慶市博物館歴史組「重慶井口宋墓清理簡報」(『文物』61・11)
- ⑭ Ⅱ-3. 鄭州市博物館「滎陽司村宋代壁画墓發掘簡報」(『中原文物』82・4、82年12月)
- ⑮ Ⅱ-4. 張增午氏「河南林県城関宋墓清理簡報」(『考古与文物』82・5、82年9月)
- ⑯ Ⅱ-5. 黃明蘭、宮大中氏「洛陽北宋張君墓画像石棺」(『文物』84・7)、中国美術全集絵画編19(上海人民美術出版社、一九八七年) 図版63 中国画像石全集8石刻線画(中国美術分類全集、河南美術出版社、二〇〇〇年) 図版187-190
- ⑰ Ⅱ-6. 中国考古学会「中国考古学年鑑一九八五」(文物出版社、85年) 一七三頁
- ⑱ Ⅱ-7. 楊明、耿志強氏「西吉県西吉灘黒虎溝宋墓清理簡報」(『寧夏文物』試刊号、86年)
- ⑲ Ⅱ-8. 洛陽市第二文物工作隊「嵩県北元村宋代壁画墓」(『中原文物』87・3、87年9月)
- ⑳ Ⅱ-9. 鞏県文物管理所、鄭州市文物工作隊「鞏県西村宋代石棺墓清理簡報」(『中原文物』88・1、88年3月)
- ㉑ Ⅱ-10. 林県文物管理所「林県一中宋墓清理簡報」(『中原文物』90・4、90年12月)
- ㉒ Ⅱ-11. 李献奇、王麗玲氏「河南洛寧北宋榮重進画像石棺」(『文物』93・5)
- ㉓ Ⅱ-12. 王進先、石衛国氏「山西長治市五馬村宋墓」(『考古』94・9)

- ②4 II-13. 洛陽市第二文物工作隊、宜陽縣文物管理委員會「河南宜陽北宋画像石棺」(『文物』96・8)
- ②5 II-14. 長治市博物館、壺關縣文物博物館「山西壺關南村宋代軀雕墓」(『文物』97・2)、趙超氏「山西壺關南村宋代軀雕墓軀雕題材試析」(『文物』98・5)
- ②6 II-15. 鄭州市文物考古研究所、新密市博物館「河南新密市平陌宋代壁畫墓」(『文物』98・12)
- ②7 II-16. 王進先、陳宝國氏「山西潞城縣北関宋代軀雕墓」(『考古』99・5)
- ②8 II-17. 廖奔氏「広元南宋墓雜劇、大曲石刻考」(『文物』86・12)
- ②9 II-世. 『世界のタイル・日本のタイル』(INAX出版、平成12年) 63頁(また、『中国のタイル 悠久の陶・軀史』INAX、平成6年) 36、37頁には、9、60、57が載る)
- ③0 II-奥. 奥村伊九良氏「鍍金孝子伝石棺の刻画に就て」(『瓜茄』5、昭和14年2月) 挿絵五
- ③1 III-1. 張德光氏「山西絳縣裴家堡古墓清理簡報」(『考古通訊』55・4、55年7月)
- ③2 III-2. 呂遵諤氏「山西垣曲東鋪村的金墓」(『考古通訊』56・1、56年1月)
- ③3 III-3. 甘肅省文物管理委員會「蘭州中山林金代雕軀墓清理簡報」(『文物參考資料』57・3)、王增新氏「関于《孝子関損》和《孝孫原毅》」(『文物參考資料』58・10)
- ③4 III-4. 王增新氏「遼寧遼陽縣金廠遼画像石墓」(『考古』60・2)
- ③5 III-5. 雁羽氏「錦西大臥鋪遼金時代画像石墓」(『考古』60・2)
- ③6 III-6. 山西省文物管理委員會、山西省考古研究所「山西芮城永樂宮旧址宋德方、潘德冲和《呂祖》墓發掘簡報」(『考古』60・8、60年10月)、中国美術全集絵画編19(上海人民美術出版社、一九八七年) 図版71
- ③7 III-7. 山西省文物管理委員會侯馬工作站「山西侯馬金墓發掘簡報」(『考古』61・12)
- ③8 III-8. 山西省文物工作委員會侯馬工作站「山西新絳葉里村元墓」(『考古』66・1)
- ③9 III-9. 河南省博物館、焦作市博物館「河南焦作金墓發掘簡報」(『文物』79・8)、中国画像石全集8石刻線画(中国美術分類全集、河南美術出版社、二〇〇〇年) 図版208、209
- ④0 III-10. 北京市文物事業管理局、門頭溝区文化辦公室発掘小組「北京市斎堂遼壁画墓發掘簡報」(『文物』80・7)、中国美術全集絵画編12(文物出版社、一九八九年) 図版169
- ④1 III-11. 鞍山市文化局、遼寧省博物館「遼寧鞍山市汪家峪遼画像石墓」(『考古』81・3)
- ④2 III-12. 甘肅省博物館、漳泉文化館「甘肅漳泉元代汪世顯家族墓葬」(『文物』82・2)
- ④3 III-13. 長治市博物館「山西長治市故漳金代紀年墓」(『考古』84・8)
- ④4 III-14a. 山西省考古研究所晋東南工作站「山西長子縣石哲金代壁畫墓」(『文物』85・6)
- ④5 III-14b. 長治市博物館、王進先氏「山西長治市捉馬村元代壁畫墓」(『文物』85・6)
- ④6 III-15. 張青晋氏「山西永洛発現金代貞元元年青石棺」(『文物』85・8)
- ④7 III-16. 山西省考古研究所、山西省聞喜縣博物館「山西省

- 聞喜県金代甃雕、壁画墓」(『文物』86・12)、中国美術全集
絵画編12(文物出版社、一九八九年)図版181、182
- ④8 Ⅲ-17. 聞喜県博物館「山西聞喜寺底金墓」(『文物』88・7)
- ④9 Ⅲ-18. 焦作市文物工作队「焦作電廠金墓甃雕簡報」(『中原文物』90・4、90年12月)
- ⑤0 Ⅲ-19. 長治市博物館、王進先、朱曉芳氏「山西長治安昌金墓」(『文物』90・5)
- ⑤1 Ⅲ-20. 山西省考古研究所、汾陽県博物館「山西汾陽金墓甃雕簡報」(『文物』91・12)
- ⑤2 Ⅲ-21. 濟南市文化局文物処「濟南柴油機廠元代甃雕壁画墓」(『文物』92・3)
- ⑤3 Ⅲ-22a. 臨夏回族自治州博物館「甘肅臨夏金代甃雕墓」(『文物』94・12)
- ⑤4 Ⅲ-22b. 陳履生、陸志宏氏編「甘肅宋元画像甃」(人民美術出版社、一九九六年)
- ⑤5 Ⅲ-22c. 魏文斌、師彥靈、唐曉軍氏「甘肅宋金墓」二十四孝」図与敦煌遺書『孝子伝』(『敦煌研究』98・3)
- ⑤6 Ⅲ-23. 山西省考古研究所「山西稷山金墓甃雕簡報」(『文物』83・1)、山西省考古研究所「平陽金墓甃雕」(山西人民出版社、一九九九年)。なお高橋文治氏「原毅・元寛考」(追手門学院大学『東洋文化学科年報』10、平成7年11月)は、稷山県青電寺腰殿の南壁壁画(元代)に、丁蘭、睭子、元寛の図のあることを指摘する。
- ⑤7 Ⅲ-24. 山西省考古研究所「山西新絳南范庄、吳鎮庄金元墓甃雕簡報」(『文物』83・1)、注⑤⑥前掲「平陽金墓甃雕」
- ⑤8 Ⅲ-25. 注⑤⑥前掲「平陽金墓甃雕」図版298-307
- ⑤9 Ⅲ-26. 商彤流、郭海林氏「山西沁県甃現金代甃雕墓」(『文物』2000・1)
- ⑥0 Ⅲ-27. 鄭州市文物考古研究所、祭陽市文物保護管理所「祭陽杜常村金代甃雕墓」(『中原文物』2000・6)
- ⑥1 Ⅲ-羅 羅振玉氏『古明器図録』巻四
- ⑥2 Ⅲ-鳥 鳥居氏注③前掲書
- ⑥3 母利司朗氏「『全相二十四孝詩選』考-日本近世における『二十四孝』享受史の諸問題」(『東海近世』4、平成3年9月)参照。また、日記故事系については、橋本草子氏「日記故事」の版本について「二十四孝図研究ノートその三」(『人文論叢』46、平成10年1月)、黒田彰、梁音「二十四孝原編、趙子固二十四孝書画合璧」(『説林』48、平成12年3月)解題参照。
- ⑥4 金文京氏注⑧前掲論文
- ⑥5 張青晋氏注④⑥前掲論文
- ⑥6 なお中国美術全集絵画編12(文物出版社、一九八九年)図版84、85に、明嘉靖三十九(一五六〇)年の馮氏石棺(原陽県文物管理委員会蔵)を収め、「両幫減地絵刻孝子、義婦、烈女、友悌等人物故事共二十二図」と言う。13(「老来喜班夷」)、33(「单衣順母」)、50(「黄香扇枕」)、9(「刻木為母」)、58(「小兒懷橘」)等が見える。また、校正時、近刊中国画像石全集8石刻線画(中国美術分類全集、河南美術出版社、二〇〇〇年)図版192、193に輝県石棺(河南博物院蔵、図版195-200に鞏義半個店石棺、図版211、212に修武石棺の収められることに気付いた。その摘要を記しておく。
- 北宋、線刻、二十四幅、榜題有。11(蔡順)、4(韓伯余)、

5 (郭巨)、2 (董永)、58 (陸績)、26 (孟宗)、61 (劉明達)、27 (王祥)、28 (姜詩妻)、59 (劉殷)、57 (田真)、49 (楊昌女)、以上、右幫、56 (趙孝宗)、9 (「丁蘭」)、33 (「閔子騫」)、53 (「琰子」)、63 (鮑山)、60 (王武妻)、62 (魯義姑)、13 (老萊子)、1 (舜子)、6 (元覺)、36 (曾參)、17 (曹娥女)、以上、左幫)。

・鞏義半個店石棺

「石棺両側孝行故事二十四幅」と言う。北宋、線刻、二十四幅、榜題無か。61、36、56、28、62、4等。詳細未詳。

・修武石棺

金、線刻、二幅、榜題有。6 (「元覺」)、62 (「魯義姑」)。併せて参照されたい。

宋、遼・金孝子図一覧

孝子伝No. (二十四孝詩選No.)

1	1	舜 (二十四孝1)	Ⅱ-1、3、4、5、8、9、12、13、14、16、Ⅲ-2、4、5(一)、(二)、6(潘)、8、11、13、14a、15、16(二)、19、21、22b、22c、23(M4)、24、26、羅、鳥(鸞)
2	2	董永 (13)	Ⅱ-1、3、4、5、8、9、11、12、14、16、広(羅)、Ⅲ-1、4、5(一)、6(宋)、(潘)、7、9、11、13、14a、15、16(下)、17、19、21、22b(五幅)、22c、23(M4)、24、26
3	3	刑渠	
4	4	伯瑜 (10')	Ⅱ-1、3、4、5、8、9、11、12、13、16、広(羅)、Ⅲ-1、5(二)、6(潘)、11、13、14a、14b、15、19、21、22b(三幅)、22c、23(M2)、(M4)、24、26
5	5	郭巨 (16)	Ⅱ-1、2、3、4、5、7、8、9、11、14、16、広(〇七二)、Ⅲ-1、3、4、5(一)、(二)、6(宋)、(潘)、8、9、11、13、14a、15、16(下)、17、18、19、20、21、22b(十幅)、22c、23(M4)、24、25、26、27、羅、鳥(鸞)、(その他)
6	6	原谷 〈元覚等〉 孝行録17	Ⅱ-1、3、4、5、8、9、10、11、13、14、16、広(羅)、Ⅲ-3、4、5(一)、(二)、6(潘)、8、10、11、13、14a、15、17、19、21、22a、22b(九幅)、22c、23(M4)、24、25、26、27
7	7	魏陽	Ⅲ-4
8	8	三州義士	
9	9	丁蘭 (3)	Ⅱ-1、2、3、4、5、8、9、11、12、14、16、広(〇七二)、世(二幅)、Ⅲ-4、5(一)、(二)、6(潘)、9、10、11、13、14a、14b、15、17、19、22b(六幅)、22c、23(M2)、(M4)、24、25、26、羅、鳥(鸞)
10	10	朱明	
11	11	蔡順 (19)	Ⅱ-4、5、9、14、16、Ⅲ-4、6(潘)、8、11、13、14a、15、19、22b(二幅)、22c、23(M1)、(M4)、24、26、羅
12	12	王巨尉	
13	13	老萊之 (8)	Ⅱ-3、4、5、8、9、10、11、13、14、16、奥、

			Ⅲ-6(潘)、13、14a、15、16(下)、19、22b、22c、23(M4)、24、26、羅
14	14	宗勝之	
15	15	陳寔	
16	16	陽威	
17	17	曹娥 孝行録14	Ⅱ-1、4、5、7、8、9、11、13、14、16、Ⅲ-5(一)、6(潘)、7、9、13、14a、15、16(一)、17、19、22b、22c、23(M4)、24、25、26、羅、鳥(鸞)
18	18	毛義	
19	19	歐尚	
20	20	仲由 日記故事 5	Ⅱ-2、16、世
21	21	劉敬宣	
22	22	謝弘微	
23	23	朱百年	
24	24	高柴	
25	25	張敷	
26	26	孟仁 (4)	Ⅱ-1、3、4、5、7、8、9、10、11、14、16、広(〇七二)、Ⅲ-1、3、4、5(一)、(二)、6(宋)、(潘)、8、9、13、14a、14b、15、16(一)、(下)、17、19、21、22b(九幅)、22c、23(M4)、24、25、26、羅、鳥(鸞)
27	27	王祥 (7) <王延>	Ⅱ-1、2、3、4、5、7、8、9、10、11、12、14、15、16、世、Ⅲ-2、3、4、5(一)(二幅)、(二)(二幅)、6(宋)、(潘)、8、9、11、13、14a、14b、15、16(一)、17、19、20、21、22a、22b(十幅)、22c、23(M4)、24、25、26、27、羅、鳥(鸞)、(二幅)、(鞍)
28	28	姜詩 (9)	Ⅱ-1、2、3、4、5、7、9、11、13、16、Ⅲ-4、5(二)、6(潘)、13、14a、15、19、22b、22c、23(M4)、24、26、羅
29	29	叔先雄	
30	30	顏烏	
31	31	許孜	
32	32	魯義士	
33	33	閔子騫 (5)	Ⅱ-2、3、5、9、11、15、16、世、Ⅲ-4、6(潘)、8、9、11、13、14a、15、19、22c、23(M4)、24、26、鳥(その他)
34	34	蔣詡	

35	35	伯奇	
36	36	曾參(6)	Ⅱ-3、4、5、9、10、11、14、16、広(〇七二)、奥、Ⅲ-2、5(二)、6(潘)、7、11、13、14a、15、16(一)、(下)、19、21、22b(三幅)、22c、23(M4)、24、26、羅
37	37	董黯	
38	38	申生	
39	39	申明	
40	40	禽堅	
41	41	李善	
42	42	羊公	
43	43	東婦節女	
44	44	眉間尺	
45	45	慈烏	
二十四孝詩選No.			
46	2	漢文帝	Ⅱ-8
47	10	黄山谷	Ⅱ-4、Ⅲ-11
48	11	唐夫人	Ⅱ-広(〇七二)、Ⅲ-11
49	12	楊香	Ⅱ-4、5、9、10、11、14、16、広(羅)、世、Ⅲ-4、5(一)、(二)、6(潘)、9、11、13、14a、15、17、19、21、22b、22c、23(M4)、24、26、羅、烏(鶯)
50	14	黃香	
51	15	王裒	Ⅱ-4、7、16、Ⅲ-4、5(一)、(二)、11、15、22b、25、羅、烏(鶯)、(鞍)、(その他)(二幅)
52	17	朱寿昌	
53	18	劄子	Ⅱ-3、4、5、8、9、11、13、14、16、Ⅲ-4、5(一)、6(潘)、8、11、14a、15、17、19、22b(二幅)、22c、23(M2)、(M4)、24、26、羅
54	20	菁黔婁	
55	21	吳猛	
56	22	張孝〈趙孝宗〉	Ⅱ-1、4、5、8、9、11、12、15、16、Ⅲ-4、6(潘)、10、11、13、14a、15、16(下)、19、22c、23(M1)、(M4)、24、26、羅
57	23	田真	Ⅱ-1、3、4、5、8、9、10、11、12、13、14、16、世、Ⅲ-5(一)、(二)、6(潘)、7、8、13、14a、15、17、19、22b(五幅)、22c、23(M4)、

			24、26、羅、鳥(その他)
58	24	陸續	Ⅱ-1、2、3、4、5、9、11、14、16、世、Ⅲ-6(潘)、13、14a、19、22b(三幅)、22c、23(M4)、24、26
孝行録No.			
59	8	劉殷	Ⅱ-3、4、5、8、9、10、11、14、広(〇七二)、奥、Ⅲ-6(潘)、14a、15、16(一)、18、19、21、22b、22c、23(M2)、(M4)、24、26、羅、鳥(鸞)
60	13	王武子	Ⅱ-1、3、5、9、11、16、世、Ⅲ-5(一)、6(潘)、8、13、14a、15、16(一)、19、21、22b、22c、23(M4)、24、25、26、羅
61	16	劉明達	Ⅱ-5、9、10、11、12、13、Ⅲ-5(一)、(二)、6(潘)、13、14a、15、16(一)、17、19、21、22c、23(M4)、24、25、26、羅
62	19	魯義姑	Ⅱ-3、4、5、9、11、12、14、Ⅲ-4、5(一)、(二)、6(潘)、8、11、14a、15、16(二)、19、21、22b、22c、23(M4)、24、26、羅
63	21	鮑山	Ⅱ-1、3、4、5、9、10、11、13、14、15、16、Ⅲ-6(潘)、13、14a、15、19、22b、22c、23(M4)、24、25、26、27、羅
64	41	薛包	Ⅲ-4
65	52	鄧攸	Ⅱ-4
66	53	茅蓉	Ⅲ-4、5(一)、11
67	55	江革 日記故事 8	Ⅱ-12、14、Ⅲ-11、16(二)、18、22b、羅、鳥(鸞)
	その他	その他	Ⅱ-2(卞州李氏孝女)、Ⅲ-22c(緹縈)、(劉平)
		未詳	Ⅱ-2、10(二幅)、12(五幅)、16、Ⅲ-2(九幅)、5(一)、8、13、22b(三幅)、羅(三幅)

備考 Ⅱ-広(〇七二)…〇七二医院宋墓、広(羅)…羅家橋宋墓、Ⅲ-5(一)…一号墓、5(二)…二号墓、6(宋)…宋徳方墓、6(潘)…潘徳冲墓、16(一)…小羅庄一号墓、16(二)…小羅庄二号墓、16(下)…下陽村金墓、23(M1)…馬村M 1、23(M2)…馬村M 2、23(M4)…馬村M 4、鳥(鸞)…鸞峰墓、鳥(鞍)…鞍山墓、鳥(その他)…鞍山その他出土の画像石